

第2次ズーストック計画における2023年の取組状況について

東京都建設局公園緑地部計画課
2024年3月

■第2次ズーストック計画の概要

第2次ズーストック計画は、都立動物園・水族園（建設局所管の恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園及び環境局所管の大島公園動物園）を取り巻く状況の変化を踏まえ、平成元（1989）年度に策定した「ズーストック計画」を大幅に見直し、平成30（2018）年に策定された計画である。

124種の動物を対象とし、種それぞれに「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の3つの分野について、10年後の目標を設定し、それに向かって計画を立案し進めていく。

（1）飼育繁殖

計画的な繁殖と種の適正管理を推進し、国内外の野生動物保全に取り組む関係機関等との連携を強化しながら、種の保存に取り組む。

（2）保全情報

生物学的情報や保全取組情報を整理し、生息域外保全及び生息域内保全に貢献する。飼育マニュアルを策定し、都立動物園で培ってきた飼育繁殖技術等を維持していく。

（3）普及啓発

ズーストック種を活用した様々な環境学習や情報発信に取り組む。また、都立動物園等が将来の野生動物保全の担い手を育む場となるべく、効果的な環境教育や野生動物保全の普及啓発を推進する。

■取組状況について

上記（1）～（3）の項目について、その目標達成に向けて毎年、計画の作成及び実施状況の確認を行っている。計画対象の全124種について、2023年（1月1日～12月31日）の成果などを以下のとおり報告する。

■2023年の取組について

(1) 飼育繁殖について

繁殖を目指していた種のうち、哺乳類 12 種(アイアイ、アマミトゲネズミ、スマトラトラ等)、鳥類 15 種(オウサマペンギン、トキ、オニオオハシ等)、両生類 8 種(アカハライモリ等)、魚類 5 種(ミヤコタナゴ等)、無脊椎 2 種(アナカタマイマイ、カタマイマイ)の繁殖に成功した。このうち 2 種で繁殖仔が死亡し、仔の成長には至らなかった。また、産卵のみが確認され孵化に至らなかった事例が 8 種、受精卵を他施設に移行後に孵化・育成した事例が 1 種、繁殖には成功したが保全対象地域個体群の繁殖では無い事例が 1 種で認められた

チンパンジーやホッキョクグマ、ライチョウ、ペンギン類などでは、精液採取や人工授精、受精卵の輸送、人工育雛など人工繁殖技術を利用した取組が見られ、自然交配が困難な状況に置かれた個体の繁殖などの成果が得られた。

トキやアカガシラカラスバトではこの数年、人の手を介さない自然孵化、自然育雛への取組を推進している。トキでは昨年に続き自然孵化後の自然育雛に成功し、巣立ちまで至っている。

《主な取組実績例》

- ・アイアイ、スマトラトラが繁殖し、仔が成長。(上野動物園)
- ・チンパンジーが人工授精で妊娠を確認。インドサイが自然交配に成功。トキは自然繁殖に 2 年連続で成功。(多摩動物公園)
- ・アムールヤマネコ、ニホンカモシカが 2 年連続で繁殖。アマミトゲネズミが初めて繁殖に成功(井の頭自然文化園)
- ・バーバリーシープ、カラスバト、オニオオハシが繁殖し、仔が成長。(大島公園動物園)
- ・フンボルトペンギン、ウミガラス、エトピリカについては繁殖が順調。(葛西臨海水族園)

(2) 保全情報について

都立動物園以外の機関と連携した取組も多く、種卵や保存精液の輸送協力など繁殖に関する取組の協力、またホルモン測定などの繁殖生理や行動学などに関する研究などの共同研究も多く実施された。これら共同研究などの一部については、成果を会議または論文で発表した。

域内・域外保全活動については、アイアイやジャイアントパンダ、モウコノウマで保護資金の拠出を通して現地の保全活動に貢献した。コロナ禍においても、アカハライモリの生息地調査、保全地近隣の小学生に現地での課外授業を継続して実施した。

《主な取組実績例》

- ・野生生物保全センターと連携してチンパンジーの人工授精に継続して取り組んだ結果、妊娠に至り、出産に向け準備中。(多摩動物公園)
- ・スマトラトラなどでは大学と連携して糞中あるいは血中の性ホルモン測定による発情周期の分析に取り組んでいる。(上野動物園)
- ・大学協力のもとホッキョクグマの精液採取を実施し、精液性状を検査。(上野動物園)
- ・オウサマペンギンの有精卵を他園に輸送。輸送先で孵化・育成に成功。(葛西臨海水族園)
- ・ウミガラス、エトピリカについて、生息地における刺し網による海鳥混獲の削減を目指した共同研究を実施。(葛西臨海水族園)
- ・大島島内で保護されたノスリを受け入れた。PCR による雌雄判別を実施。(大島公園動物園)

(3) 普及啓発について

高病原性鳥インフルエンザの園内発生の影響を受け、多摩動物公園では休園を余儀なくされた期間もある。それ以外の園においても、高病原性鳥インフルエンザの国内発生状況の影響を受け、展示中止などの措置を講じた種もあった。5月には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から「5類感染症」に移行され、多くの教育普及活動が感染防止対策を実施した上で、対面のイベント、講演会やガイドを再開することができた。対面でのイベントが実施されても、コロナ禍で工夫して行われてきた、X（旧 Twitter）などの SNS やズーネットを利用した情報発信や、オンライン参加型のイベントによる普及啓発も継続して見られた。

《主な取組実績例》

- ・国内最高齢のスリランカゾウの「アヌーラ」について長生きの秘訣や飼育の歴史などをテーマにした取材複数あり。（多摩動物公園）
- ・世界ゴリラの日に国内全飼育園と連携協力し、普及啓発イベントを実施。スマートフォンとゴリラの危機のつながりに関するトークイベント実施に併せ使用済みスマートフォンの回収を呼びかけ、得られた資金を現地で活動する NPO 団体に寄付し保全に貢献。（上野動物園）
- ・ツシマヤマネコについて、「ヤマネコ祭」では、野生生物保全センターと経営企画係との協働によりブースを設置し、当協会の野生生物の保全活動と地球環境保全に向けた取組について紹介した。ボランティアによるワークショップやガイド、飼育担当者や動物解説員によるガイドも実施した。（井の頭自然文化園）
- ・ウミガラスについて羽幌町と、「つどえ オロロヘン！」を開催。羽幌町で開催された「海鳥フェスティバル」に参加し、現地でのブース展示やワークショップ、また、アバターを使った水族園の展示水槽の観察会、ライブ配信などを実施した。（葛西臨海水族園）
- ・アルダブラゾウガメについて教育番組へ参加し、放飼場の引っ越しについて紹介。引っ越しについては、『どうぶつと動物園』第 729 号、732 号に記事を掲載。（大島公園動物園）



アイアイ（上野）



チンパンジー（多摩動物公園）



アマミトゲネズミ
（井の頭自然文化園）



世界ゴリラの日に国内全飼育園と連携協力したイベント（上野）



北海道海鳥センターで開催された「海鳥フェスティバル」（葛西）



アルダブラゾウガメの引っ越し（大島公園動物園）

○全 124 種の取組状況一覧

	科	ブーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
1	コアラ科	コアラ	多摩	・他の飼育園とオスどうしの交換を実施。 ・「コアラの日」に国内飼育園館による SNS リレー実施。
2	ゾウ科	アジアゾウ	上野	・2020 年に生まれたオス「アルン」が順調に 3 歳に成長。健康管理のためのトレーニングを継続。 ・「世界ゾウの日」に飼育担当やボランティアによるガイドを実施。
3	ゾウ科	スリランカゾウ	多摩	・オスとメスを同居させペアリングを実施したが、繁殖には至っていない。 ・「世界ゾウの日」にクイズイベントを実施。
4	ゾウ科	アフリカゾウ	多摩	・オス 1 頭の飼育を継続。 ・「世界ゾウの日」にクイズイベントを実施。
5	キツネザル科	クロキツネザル	上野	・5 月に双子(オスメス各 1 頭)が生まれ育成中。 ・「世界キツネザルの日」に情報発信。
6	キツネザル科	ワオキツネザル	上野 大島	・計画的な個体管理が実施されている。 ・「世界キツネザルの日」に情報発信。
7	キツネザル科	クロシロエリマキ キツネザル	上野	・オスとメスを同居させペアリングを実施したが、繁殖には至っていない。 ・「世界キツネザルの日」に情報発信。
8	アイアイ科	アイアイ	上野	・1 月にオスが、5 月にメスが生まれ育成中。 ・現地での保全活動を行うマダガスカルファウナグループの年次総会に参加し、超音波画像診断によるアイアイの妊娠診断について発表。 ・「世界キツネザルの日」に情報発信。
9	ロリス科	レッサースロー ロリス	上野	・日本動物園水族館協会の計画に基づいた個体の移動を行い繁殖に取り組んでいる。 ・オスとメスを同居させペアリングを実施したが、繁殖には至っていない。
10	オマキザル科	ワタボウシタマリン	上野	・メスが高齢だが、若いメスを導入予定。
11	オナガザル科	ブラッサグエノン	上野	・繁殖仔の搬出先と新規にメスの受け入れを検討中。
12_1	オナガザル科	ホンダザル	多摩	・遺伝的占有度を考慮した、繁殖制限を行っている。
12_2	オナガザル科	ホンダザル (下北個体)	上野	・適正な展示頭数を維持。
13	オナガザル科	アビシニアコロブス	上野	・適切な血統管理を行い、4 頭が繁殖。
14	テナガザル科	シロテテナガザル	上野 多摩	・上野に新規ペアを導入する方向で調整中。
15	ヒト科	ニシゴリラ	上野	・2022 年に生まれた仔は、人工哺育を経て群れに復帰。 ・「世界ゴリラの日」に国内全飼育園と協力し、イベントを実施。スマートフォンとゴリラの危機のつながりに関するトークイベント及び使用済スマートフォンの回収を行い、保全に貢献。
16	ヒト科	チンパンジー	多摩	・人工授精による妊娠を確認。 ・「世界チンパンジーの日」には不要スマホの回収など企画を実施。
17	ヒト科	ボルネオオランウー タン	多摩	・他個体との同居が困難だった人工哺育個体に社会化訓練を実施し、他園に搬出。 ・「世界オランウータンの日」にボランティアと協働で紙芝居読み聞かせなど実施。
18	リス科	ニホンリス	上野 井の頭	・井の頭では工事に伴い、8 月より「リスの小径」は閉鎖となったが、園路側からの観察を積極的に促す。
19	ネズミ科	アマミトゲネズミ	井の頭	・初めて繁殖に成功。非公開なので情報発信。
20	オオコウモリ科	オリイオオコウモリ	上野 井の頭 大島	・各園、適正個体群を維持。
21	センザンコウ科	ミミセンザンコウ	上野	・メス 1 頭の飼育を継続。オスの導入を検討中。
22	ネコ科	アフリカチーター	多摩	・アメリカの動物園から 3 頭のチーターを導入。 ・「国際チーターの日」にボランティアによる観察イベントを実施。
23	ネコ科	マヌルネコ	上野	・「国際マヌルネコの日」にクイズを交えた情報発信。
24	ネコ科	ベンガルヤマネコ	上野	・メス 1 頭他園に貸出中。現在飼育個体なし。入手の可能性について調査継続中。

	科	ズーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
25_1	ネコ科	アムールヤマネコ	井の頭	・昨年に続き5月に4頭の仔が生まれ成育中。
25_2	ネコ科	アムールヤマネコ (ツシマヤマネコ)	井の頭	・環境省の計画に基づき、個体の移動を実施。 ・「ヤマネコ祭」では、野生生物保全センターと経営企画係との協働によりブースを設置し、野生生物の保全活動と地球環境保全に向けた取組について紹介。
26	ネコ科	ライオン	多摩	・新たな繁殖オスとして、1頭を南アフリカの飼育施設から輸入（所有はインドネシアの動物園）。
27	ネコ科	アムールトラ	多摩	・メスの健康状態に配慮して、ペアリング実施。
28	ネコ科	スマトラトラ	上野	・自然交配により4月と12月に出産。計4頭が生育中。 ・「世界トラの日」に合わせて、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金と協力してイベント実施。
29	ネコ科	ユキヒョウ	多摩	・オスとメスを同居させペアリングを実施したが、仔の成育には至らず。 ・「世界ユキヒョウの日」にSNSで情報発信
30	イヌ科	ヨーロッパオオカミ	多摩	・新規ペアを導入する方向で調整中。
31	イヌ科	フェネック	井の頭	・オスとメスを同居させペアリングを実施したが、繁殖には至っていない。
32	クマ科	ジャイアントパンダ	上野	・2017年生まれの仔を中国へ返還。 ・「パンダの日」記念企画を実施。
33	クマ科	マレーグマ	上野	・高齢のメスのみの単性飼育が続いている。新規個体導入に向けた情報を収集している。
34	クマ科	ホッキョクグマ	上野	・交尾行動は確認されるが、妊娠には至っていない。 ・大学協力の元で精液採取を実施。 ・「国際ホッキョクグマの日」に情報発信。
35	クマ科	ニホンツキノワグマ	上野 多摩	・飼育環境に適した個体数の飼育を維持している。 ・上野では冬眠している状態を展示。
36	イタチ科	ホンドテン	井の頭	・オスのみの飼育となっており、メスの導入について調査中だが、機会を逃さずオス1頭を搬入。
37	レッサーパンダ科	シセンレッサーパンダ	上野 多摩 大島	・各園適切な個体管理に基づき飼育。 ・「国際レッサーパンダの日」には各園SNSなどを用いて情報発信。
38	ウマ科	モウコノウマ	多摩	・モンゴルでモウコノウマの野生復帰プロジェクトを進める国際タヒグループ（ITG）に資金協力。
39	ウマ科	グレビーシマウマ	多摩	・飼育施設建設中。仮収容施設で適正に飼育管理。
40	バク科	マレーバク	多摩	・「世界バクの日」に保全関連情報等について情報発信。
41	サイ科	ヒガシクロサイ	上野	・「世界サイの日」に情報発信を実施。
42	サイ科	インドサイ	多摩	・ペアリングの結果、自然交配に成功。
43	カバ科	コビトカバ	上野	・交尾行動は確認されるが、妊娠には至っていない。
44	カバ科	カバ	上野	・オスの死亡により、メスのみの単性飼育を継続。
45	ウシ科	バーバリーシープ	上野 大島	・飼育個体が死亡。施設整備予定のため再導入は行わず展示中止。 ・血統に配慮した繁殖により大島で5頭繁殖。
46	ウシ科	ゴールデンターキン	多摩	・飼育環境に適した個体数の飼育を維持している。
47	ウシ科	ニホンカモシカ	上野 多摩 井の頭 大島	・井の頭で4月にメスの仔が1頭産まれる。 ・大島でも交尾行動は確認されるが、妊娠には至らず。
48	ウシ科	シロオリックス	多摩	・飼育施設建設中。仮収容施設で適正に飼育管理。
49	カモ科	コクガン	多摩	・メス2羽の飼育を継続。オスの導入を模索中。
50	カモ科	ハワイガン	大島	・7羽を新規に導入。繁殖ペアの形成を進める。
51	カモ科	シジュウカラガン	上野 多摩 井の頭	・各園とも適度な飼育個体数を維持。
52	カモ科	ヒシクイ	多摩	・繁殖に取り組むが産卵に至らず。新規導入を模索中。
53	カモ科	マガン	多摩	・産卵したが、無精卵だった。
54	カモ科	カリガネ	多摩 井の頭	・産卵、孵化には至るが雛の成育には至らず。
55	カモ科	オシドリ	多摩 井の頭 大島	・各園適切な個体管理に基づき、多摩、井の頭で繁殖。

	科	ズーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
56	カモ科	トモエガモ	井の頭	・飼育展示個体なし。導入に向けた情報収集を継続中。
57	キジ科	ライチョウ	上野	・人工授精を実施したが孵化には至らなかった。 ・「国際生物多様性の日」に情報発信。
58	キジ科	ニジキジ	多摩	・新規メスを導入し、繁殖に取り組む。
59	キジ科	コサンケイ	上野 多摩	・4羽が孵化して成育。 ・産卵はしたが孵化には至らず。
60	キジ科	パラワンコクジャク	上野 多摩	・飼育環境に適した個体数の飼育を維持している。
61	ペンギン科	オウサマペンギン	葛西	・他園と連携し、有精卵の輸送・孵化・雛の育成に成功。
62	ペンギン科	ケープペンギン	上野	・産卵はしたが孵化には至らず。 ・「世界ペンギンの日」にボランティアによる普及啓発を実施。
63	ペンギン科	フンボルトペンギン	葛西 井の頭	・葛西で2羽の雛が成育。 ・「世界ペンギンの日」に情報発信。
64	フラミンゴ科	オオフラミンゴ	多摩 大島	・適正飼育頭数を維持しながら他園との個体移動を行い、計画的な飼育繁殖に取り組んでいる。
65	フラミンゴ科	ベニイロフラミンゴ	上野	・産卵には至らず。
66	コウノトリ科	ナベコウ	多摩	・6羽の雛が成育。
67	コウノトリ科	コウノトリ	上野 多摩 葛西 井の頭	・「コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル」の計画に従って、多摩での繁殖に取り組み、2羽の雛が成育。各園適切な個体管理を行い、飼育を継続。 ・シンポジウムで講演するなど普及啓発に努めた。
68	トキ科	ホオアカトキ	上野 多摩	・血統に配慮して計画的な繁殖に取り組み、6羽の孵化、育成に至る。
69	トキ科	トキ	多摩	・自然孵化、自然育雛に成功。4羽の雛が育成。
70	トキ科	ショウジョウトキ	多摩 大島	・適正個体数の維持を考慮し、計画的な繁殖に取り組み、多摩で5羽の雛が成育。
71	ハシビロコウ科	ハシビロコウ	上野	・適切に管理しながら、繁殖に適した条件を模索中。
72	コンドル科	コンドル	上野	・2016年産まれの個体を搬出後、次期繁殖に取り組む。
73	タカ科	コシジロハゲワシ	上野	・適切な個体管理に基づき飼育。
74	タカ科	ダルマワシ	上野 多摩	・各園適切な個体管理に基づき飼育。
75	タカ科	クマタカ	上野 多摩	・施設整備を予定しており、工事期間中の個体移動も検討する。多摩動物公園に繁殖子1羽を移動した。
76	タカ科	イヌワシ	多摩	・適切な個体管理を実施。
77	タカ科	ツミ	井の頭 大島	・井の頭で繁殖に向けた取組。 ・大島でオスの導入を模索中。
78	タカ科	オジロワシ	多摩 大島	・適切な個体管理に基づき飼育。
79	タカ科	オオワシ	上野 多摩	・日本動物園水族館協会の計画に基づき、適切な個体管理を実施。
80	タカ科	ノスリ	上野 大島	・繁殖に向けた取組。 ・上野は施設整備に伴い、現在飼育個体なし。
81	ツル科	ソデグロヅル	多摩	・高病原性鳥インフルエンザ感染、死亡の影響により繁殖への取組は実施できない状況。
82	ツル科	マナヅル	多摩 井の頭 大島	・各園の飼育個体は適切に管理。日本動物園水族館協会の計画に基づき、必要に応じて繁殖に取り組む。
83	ツル科	タンチョウ	上野 多摩 葛西 井の頭	・各園の飼育個体は適切に管理。日本動物園水族館協会の計画に基づき、必要に応じて繁殖に取り組む。
84	ツル科	オグロヅル	上野 多摩	・日本動物園水族館協会の計画に基づき他園と連携。上野でメスのみの単性飼育となっている。
85	ウミスズメ科	ウミガラス	葛西	・日本動物園水族館協会の計画に基づき繁殖に取り組み、2羽の雛が成育。 ・東京動物園協会と羽幌町との間で結んだ協定に基づき、連携した普及啓発を展開。
86	ウミスズメ科	エトピリカ	葛西	・1羽の雛が成育。 ・遺伝的多様性、動物行動学などの共同研究を実施。

	科	ズーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
87	ハト科	カラスバト	上野 多摩 井の頭 大島	<ul style="list-style-type: none"> 各園の飼育個体は適切に管理。大島で3羽の雛が成育。 大島と都立高校、国立環境研究所で共同研究実施。
88	ハト科	アカガシラカラスバト	上野 多摩 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 上野で2羽、多摩で4羽の雛が成育。 上野、多摩で小笠原より傷病個体を受け入れ。
89	ハト科	シラコバト	上野	<ul style="list-style-type: none"> 新規メス個体の導入を調整中。
90	フクロウ科	オオコノハズク	上野 多摩 井の頭 大島	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割と状況に応じて適切な個体管理を行い、飼育を維持している。
91	フクロウ科	ワシミミズク	多摩	<ul style="list-style-type: none"> 既存オスと新規導入したメスと同居を進める。
92	フクロウ科	フクロウ	上野 多摩 井の頭 大島	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割と状況に応じて適切な飼育管理を行った。繁殖の兆候が見られる園もあるが孵化には至っていない。
93	オオハシ科	オニオオハシ	上野 大島	<ul style="list-style-type: none"> 大島で人工孵化、人工育雛で1羽成育。
94	ハヤブサ科	ハヤブサ	井の頭 大島	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖に向けて飼育環境の改善を実施。
95	カラス科	ルリカケス	上野	<ul style="list-style-type: none"> 自然繁殖により雛4羽が成育。
96	リクガメ科	アルダブラゾウガメ	大島	<ul style="list-style-type: none"> 交尾が確認されているが、産卵には至らず。
97	クロコダイル科	ニシアフリカコガタ ワニ	上野	<ul style="list-style-type: none"> 日本動物園水族館協会の計画に基づき、適切な個体管理を実施。
98	ワニトカゲ科	チュウゴクワニトカゲ	上野	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖に向けた取組。
99	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。 「世界動物の日」にちなんで情報発信。 講演会などで普及啓発を実施。
100	イモリ科	アカハライモリ	上野 多摩 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園安定した個体群の維持を実施している。 生息域内にて調査と環境整備を継続。 小中学生を対象に体験学習などを実施。
101	イモリ科	イボイモリ	上野	<ul style="list-style-type: none"> 継続して繁殖に成功。
102	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	上野 多摩 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 飼育環境に適した個体数の飼育を維持している。 多摩、井の頭で繁殖に成功。
103	アマガエル科	ニホンアマガエル	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。
104	アカガエル科	ニホンアカガエル	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。 井の頭で繁殖に成功。
105	アカガエル科	トウキョウダルマ ガエル	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。
106	アカガエル科	ムカシツチガエル※	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。 上野、井の頭で繁殖に成功。
107	アカガエル科	ヤマアカガエル	上野 多摩	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。 上野で繁殖に成功。
108	アオガエル科	カジカガエル	上野 葛西 井の頭	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。 上野、葛西で繁殖に成功。
109	アオガエル科	シュレーゲルアオ ガエル	上野 多摩 葛西	<ul style="list-style-type: none"> 各園の役割に応じた個体管理を実施。

	科	ズーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
110	アオガエル科	モリアオガエル	上野 多摩 葛西	・各園の役割に応じた個体管理を実施。
111	メジロザメ科	アカシユモクザメ	葛西	・繁殖に適した健康な個体を育成中。育成にはあと数年必要と考えられる。
112	コイ科	ミヤコタナゴ	井の頭	・新規導入個体群で繁殖に成功。
113	コイ科	ゼニタナゴ	葛西	・累代飼育を継続している。 ・産卵に必要な二枚貝の飼育試験も継続。
114	メダカ科	ミナミメダカ	葛西 井の頭	・葛西で調布市産及び葛飾区産の個体、井の頭で杉並区産の個体を飼育。それぞれの個体群で繁殖。
115	トゲウオ科	ムサシトミヨ	井の頭	・累代飼育を継続している。
116	ヨウジウオ科	タツノオトシゴ	葛西	・近縁種による飼育試験を行ってきたが、タツノオトシゴの飼育を開始。
117	ベラ科	メガネモチノウオ	葛西	・適切な個体管理に基づき飼育。
118	ハゼ科	トビハゼ	葛西	・仔魚は確認されたが成育には至らなかった。 ・親子向けプログラム「トビハゼの調査地を訪ねる」を実施。
119	シジミチョウ科	オガサワラシジミ	多摩	・飼育受け入れ態勢維持のため食草管理、近縁種の飼育を継続。 ・生息地での調査に飼育担当職員が参加。
120	ナンバンマイマイ科	アナカタマイマイ	上野 多摩 葛西	・各園の飼育個体は適切に維持、管理。 ・環境省と協議し、遺伝的多様性に配慮しながら計画的な繁殖に取り組んでいる。
121	ナンバンマイマイ科	カタマイマイ	葛西 井の頭	・遺伝的多様性に配慮しながら、安定的な繁殖を目指して飼育を継続。
122	ミドリイシ科	スギノキミドリイシ	葛西	・大型水槽による飼育展示試験中。 ・情報パネルやSNSなどで、サンゴ礁の危機的状況などについて情報を発信。
123	アザミサンゴ科	アザミサンゴ	葛西	・LED照明下で順調に成長。繁殖に向けて飼育環境を整えている。
124	キクメイシ科	キクメイシ	葛西	・LED照明下で順調に成長。繁殖に向けて飼育環境を整えている。